

バス停からの 小さな旅



15 バス停「下廿屋公民館(ほたる線)」から 観音洞円空窟を訪ねる

三和町にある下廿屋公民館のバス停から北側の山への小道をたどり、沢に沿って進むと、見上げるほどの大きな岩壁群に出会います。その一部、岩山に南面する3つの洞窟とその付近一帯が、「観音洞円空窟(市指定文化財)」です。そこは在りし日の円空が修行し、造像を行った場所と伝えられています。

円空(1632~1695年)は、美濃国に出自を持つ修験僧で、全国を行脚しながら生涯をかけて膨大な数の木像を彫り続けました。当市とも縁深く、市内では15点の作例が確認されており、そのうちの一体が木造馬頭観音菩薩立像(市指定文化財)で、かつてはこの洞窟脇の岩の上の小さな祠に安置されていました。重要なのは、この祠の棟札から寛文11(1671)年という制作年代が推定でき、彼の作風の変遷を知る大きな手掛かりになっていることです。

現在、この像は市に寄託され、その足跡を残すのみですが、山中の洞穴の奥からは、今も造像に打ち込む円空のノミの音が聞こえてくるようです。

【参考】『みのかもの円空仏改訂版(2006年)』



▲木立の中にあられる観音洞円空窟



今回乗車したバス

行き ほたる線

Aコース3便

帰り ほたる線

Bコース4便

09時20分 美濃太田駅北口

09時46分 下廿屋公民館

下車後、バス停から北

側の山道を歩き、観音

洞円空窟へ

11時47分 下廿屋公民館

12時13分 美濃太田駅北口



▲木造馬頭観音菩薩立像